

言語活動を通して 思考過程重視の学習観を育む

ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」の結果から

子どもに主体的に学ぶ力を育むために、どのような学習観を身に付けることが望まれるのか。ベネッセ教育総合研究所が行った調査の結果から見てきたことを報告する。

「21世紀型能力」「主体的に学ぶ力」の育成が今、求められる

今、教育分野では、21世紀に求められる素質・能力を定義し、それに基づいた自国のカリキュラムを開発する取り組みが、世界の潮流となつていきます。

日本でも、国立教育政策研究所が「21世紀型能力」として、「思考力」を中核に、それを支える「基礎力」、方向付ける「実践力」という三層構成を提案しました（*1）。文部科学省が示す次期教育課程の改訂の趣旨（*2）の中にも、「高い志や意欲を持つ自立した人間」「他者と協働」「今後の社会を生きる力として求められる資質・能力」「主体的

な学習意欲」「主体的に学ぶ力」といったキーワードがあります。そのため、次期教育課程の改訂では、学習意欲を持つて主体的に学ぶ力の育成という視点が一層強化されると考えられます。学校現場では、教科内容の指導と共に、「いかに学ぶか」や「なぜ学ぶのか」を考えさせる指導も求められるでしょう。

そのような動向を踏まえ、ベネッセ教育総合研究所では、「小中学生の学びに関する実態調査」を行いました。子どもが主体的に学ぶために、どのような学び方（学習方略）を身に付けて、どのような学習観を育めばいいのか。その把握を目的にしています。ここでは、言語活動に関連する調査結果を紹介し

ベネッセ教育総合研究所 初等中等教育研究室 主任研究員
邵勤風 しょう・きんふう



◎初等教育領域を中心に、子ども、保護者、教員対象の意識や実態に関する調査研究を行う。
【学習基本調査・国際6都市調査】
【第3回子育て生活基本調査】などを担当。

「相手の考えを聞く」8割

「意見をまとめる」5割弱が得意

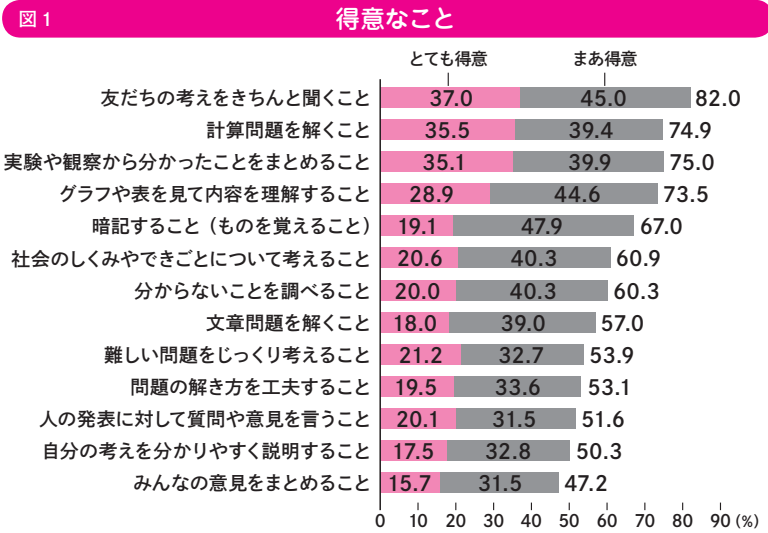
本調査では、基礎的・基本的な知識・技能を測る項目として、成績の自己評価について尋ねています。更に、思考力・判断力・表現力に関して、子どもの実態の把握のために「得意なこと」を尋ねました。

各項目について「得意」と答えたのは5割弱〜8割と、全般的に高いのが1つの特徴です（図1）。ところが、「とても得意」だけを見ると、「友だちの考えをきちんと聞く」「計算問題を解く」「実験や観察から分かったことをまとめる」に比べ、「自分の考えを分かりやすく説明する」（17・5%）、「みんなの意見をまとめる」（15・7%）は低くなっています。

友だちの考えを聞くことは得意と感じている一方で、自分の考えを説明したり、友だちの意見をまとめたりすることには、やや苦手意識があることが読み取れます。自分の考え

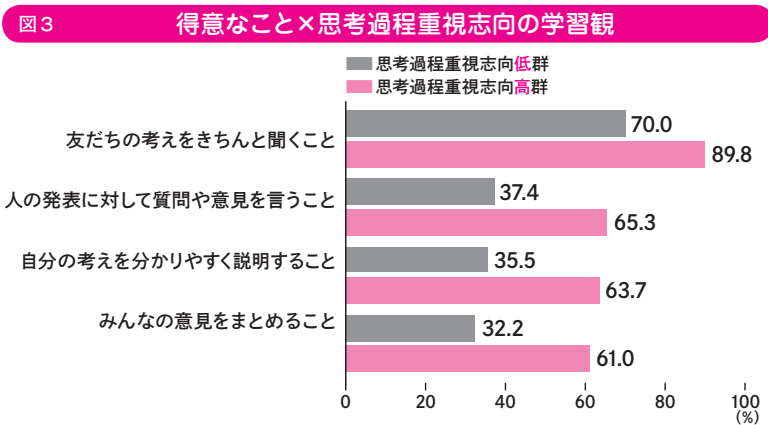
*1 国立教育政策研究所「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」（教育課程の編成に関する基礎的研究報告書5）（2013年3月）
*2 文部科学省中央教育審議会（第90回）配布資料 資料1 教育再生の実現に向けて（その4）（2014年3月）

「学びたい！」意欲を伸ばす言語活動



- 図2 学習に対する意識 (学習観)
- 意味理解志向……「なぜ」かを考えながら勉強する
 - 丸暗記志向……テストに出そうなところを丸暗記する
 - 思考過程重視志向……難しい問題をじっくり考える
 - 結果重視志向……とにかくテストの点数が高ければいい
 - 方略志向……自分に合った勉強方法を考える
 - 練習量志向……たくさん問題を解く
 - 失敗活用志向……間違いを振り返り次の学習に生かす
 - 他者依存志向……分からないことはすぐ誰かに教えてもらう

注) 学習観の分類については、東京大学の市川伸一教授の研究室で開発されたものを引用しているが、「環境依存志向」のみを「他者依存志向」に変更している。



注1) 図1～3は小学4年生～6年生の数値
 注2) 図3の数値は「とても」+「まあ」得意の%
 出典/ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」(2014年2～3月。小学4年生～中学2年生の子ども及びその保護者各5,409人。郵送法による自記式質問紙調査)

「主体的に学ぶ力」が育まれていくので、将来学校を卒業しても、高い意欲を持ち、自ら学び続けられるように、小学生のうちから学習に対する基本的な姿勢や正しい考えを育てていくことが大切です。授業における言語活動が、まさに主体的に学ぶ力を子どもに付けるための機会となることを期待したいと思います。

次に、得意なこと（思考力・判断力・表現力）と学習に対する意識（学習観）との関係を見ていきます。ここでは、図2に示した東京大

「思考過程重視の学習観」と「聞く・伝える・まとめる」力は相関関係

を分かりやすく伝える力、みんなの意見をまとめる力は、21世紀型能力の重要な要素でもあり、今回の特集で紹介しているような言語活動を通して育むことが出来るのではないのでしょうか。

なっています。思考過程重視志向が低い群と

「得意」と回答した割合が高く

学級の市川伸一教授の研究室で開発された学習観の分類の枠組を参考にしながら、ベネッセ教育総合研究所で質問項目を設定し、学習に対する意識を尋ねました。

す。それらの活動を通じて、「21世紀型能力」

視ではなく、思考過程重視の学習観を子ども

比べると、約20～30ポイントと大きく差が開いています。思考過程を重視すること、聞く・伝える・まとめるといった力が関係していることが分かります。